

2006年度 早稲田大学 社会科学部

日本史 解答

I 古代の外交 <やや難>

問1ロ 問2イ 問3ハ 問4ホ 問5ロ

問6ハ 問7渤海 問8ハ 問9ハ 問10大輪田泊

問1・4は難問。問6・8はやや難しい。もともと4問とも、どこかでなんとなく見たこと、聞いたことがあって解けた人もいるだろう。そういう意味では「標準」レベルの大問である。

II 応仁の乱・中世の一揆 <やや易>

問1ロ 問2ハ 問3イ 問4山科 問5イ

問6ロ 問7逃散 問8ロ 問9イ 問10ロ

山城の国一揆の史料は、もう何度も出題されている。問6がやや難しい。問9は消去法で考える。

III 近世の外交 <やや易>

問1己酉(約条) ※解答用紙には「約条」と書いてある

問2ニ 問3ニ 問4朱舜水 問5ホ

問6ホ 問7ホ 問8イ 問9ニ 問10ハ

早稲田ではあまりに定番なテーマからの出題。問2は消去法で解く。正解以外はどれも必ず覚えておくべき著作である。問9は難問。

IV 近現代の経済・賠償問題 <標準>

問1ゆうびん 問2前島密 問3ロ 問4ホ

問5ロ 問6イ 問7ホ 問8イ 問9ニ 問10ロ

問 1・9 は難問。ただし、問 1 は文章を読解すれば、勘で正解してしまうことがあるだろう。「ていしん(逡信)」と答えた人は残念だった。この 2 つの空欄補充問題は、どちらも原典にあたらなにかぎり、到底自信を持って答えられるわけがない。そんな問題に目を奪われることなく、残りの問題を全問正解することが肝心である。ただでさえ岩倉使節団や傾斜生産方式は、早稲田で定番の出題だったのだから。

講評

昨年とくらべると易化した。ところで、大問Ⅱの問 5 の選択肢を見て何か気づいた人はいなかっただろうか。ダミーの選択肢の「六角高頼」は、今年度は政治経済学部でも出題された用語である。国際教養学部と人間科学部では、ともに六角氏が守護だったことを問題にしていた。そして、これらの内容は、出題は一般の大学ではめったに見られないものである。ここまで言えば、もうすべてを説明する必要はないだろう。過去問を分析する意味は大きい。しかし、時間に余裕のない受験生にはそれはできない。赤本などに書かれている大問ごとのアバウトな分析でがまんするしかないのである。早稲田予備校では、早稲田大にかぎらず、主要大学の本気のデータ分析にもとづく授業が展開されています。